

「特別支援教育に関わる方法論」-個別支援プログラムの本質的機能- 立命館大学設置科目

授業の概要		学校教育も広義のヒューマンサービスのひとつです。そのような新しい枠組みの下で、「個別支援プログラム」や特別支援教育が本来めざす目標について、形式や組織論ではなく、生徒にもたらす機能を中心にとらえ、「理念-方法論-技法」の一貫したパラダイムとして、具体的に「どのように支援するか」についての実践的力を獲得することを目標とします。先進的に京都市で実施されてきた「特別支援教育」の到達点や課題も検証しつつ、優先的目標設定のおきかた、支援とその効果の関係を検証するための行動記述や実践デザインのありかた、そして「自己決定」を重視した自立に必要な「過不足ない援助」の諸技術について、応用行動分析学(ABA)の方法を軸に、京都市で新たに展開しつつある「学生ジョブコーチシステム」の実践場面(学校や実習先企業)なども利用して学習してもらいます。実験的試みとしてWebCTおよび専用Blogなどインターネットを利用した教材配信や質疑応答の仕組みを追及します。		
回	日時	授業テーマ	形式	授業担当予定者
1 2	5月11日(金) 18:00~21:00	インクルージョンと「特別支援教育」: 京都市のこれまでの試みと課題 「障害性」を超えた特別支援教育の意味:	集団討論	望月昭・武藤崇(立命館大学) 市教委担当者
3 4	5月18日(金) 18:00~21:00	特別支援教育と応用行動分析学	講義 事例研究	望月昭・武藤崇 山本淳一(慶應義塾大)
5 6	5月25日(金) 18:00~21:00	障害のある生徒への支援の基本(1)「実習内容」の紹介とともに: 「援助」「援護」「教授」の要素を含んだ対人援助: ジョブコーチ実習を前提に(別項の「学生ジョブコーチ実習」参照)行動記録のとりかた・課題分析・機能分析	講義 実習シュミレーション	望月昭 立命館大学ステューデントジョブコーチグループ
7 8	6月1日(金) 18:00~21:00	支援の基本(2)効果的な対応を試し確認する技術として: 1)個別の技術 2)行動形成の方法(shaping: 漸近的接近, fading: フェイディング) 3)言語行動の形成(表出と理解)	講義 実習シュミレーション	望月昭・武藤崇
9 10	6月8日(金) 18:00~21:00	障害と「自己決定」: 理論と実際 1) 重度の生徒の「自己決定」は可能か? 2) 学校教育と生徒の自己決定は両立するのか? 3) ADHD児の自己決定を基本とした問題行動への対処	講義 事例研究	望月昭・武藤崇 市教委担当者 金山好美(奈良YMCA・軽度発達障害児サポートグループ)
11 12	6月15日(金) 18:00~21:00	QOLの拡大と生徒の「Wants」を伸ばす教育内容 1) QOLを主題とした教育実践 2) 「地域生活」のスキルの具体的獲得方法: 金銭管理など	講義 事例研究	望月昭 井上雅彦(兵庫教育大)
13 14	6月22日(金) 18:00~21:00	問題行動は行動問題: 「発達障害児」への教室内での対処の方法 「ポジティブヘイビアサポート」の方法: 生徒の障害性や個人能力に帰さない前進的(proactive)な教育方法	講義 事例研究	武藤崇・望月昭
15	6月29日(金) 18:00~19:30	「ひきこもり」に対する行動分析的対応 現在唯一実証的な検証と対応が行われているファーストステップジョブグループ(FSJG)による「脱ひきこもり」支援の方法の検討を通じて、「行動分析学」そして「特別支援」の意味を考える	講義 事例研究	望月昭 上田陽子(FSJG)
希望者のみ 時期は個別に設定		「学生ジョブコーチ実習」(実習内容) 1) 個別の支援プログラムと連動した就労実習の目標設定のたてかた 2) 課題分析・機能分析・行動形成技法(全課題提示法、漸近的接近、プロンプトとフェイディング) 3) 個別生徒の次のステップを予測する行動記録(援助設定の同定) 4) 環境設定を要請するための記録と実践のデザイン 障害のある生徒の就労実習を援助する「学生ジョブコーチ実習」では、「継続的観測」と「過不足ない支援」(援助・援護・教授)のありかたを実践的に体得してもらおう。1週間程度で、シニアジョブコーチと実習予定。	実習	望月昭

*受講者 15名程度・院生10名(立命館大学5名、連合参加大学5名)・現職教員(科目等履修生5名)

※場所

キャンパスプラザ京都 立命館大サテライト教室